

高校生物教科書を考える ～ヌクレオソームの構造を題材に～

みんなで脳に汗をかきましょう!

日時 2021年3月13日(土) 午後2時～4時

話題提供者 前島一博氏

(国立遺伝学研究所

ゲノムダイナミクス研究室 教授)



次期学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が言われ、「教科書の内容を教師が一方向的に教える」スタイルの変容が求められています。

「主体的に考え」「議論に積極的に参加し」その結果として「深い学び」につながる題材の一つとして、「ヌクレオソームの構造」を取り上げ、参加者と話し合ってみたいと思います。話題提供者の前島一博氏は、「30nmのクロマチン繊維は存在しない」と、新しいモデルを提唱されています。これまで教科書でおなじみだった30nmのクロマチン繊維。ではどんな構造をしているのでしょうか。また、どのような手法で解き明かされたのでしょうか。今回は「問いを見出す」をキーワードに、みんなで考えてみたいと思います。

- ※ 参加費 無料
- ※ 参加定員 30名
- ※ 申込方法 グーグルフォームから
お願いします。 →



URL: <https://forms.gle/nYRTuewGqL18tstN6>

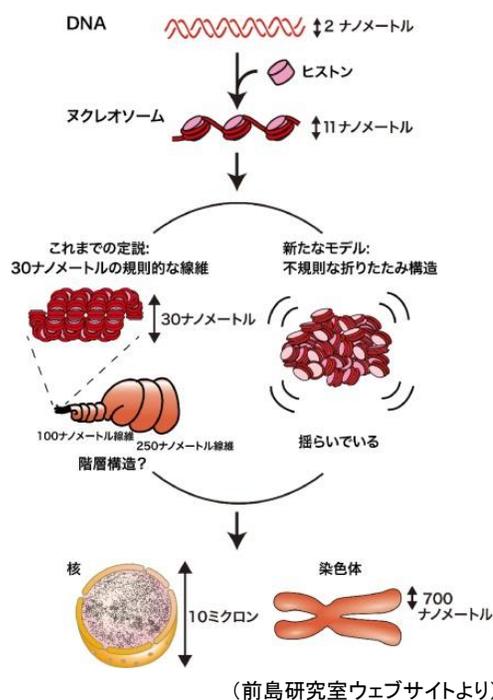
※ 参加者には、2～3日前までにZoomミーティングIDとパスコードをお知らせします。

※ 問い合わせ先：生物教育研究所

info@tibe.sakura.ne.jp

連絡先電話番号：090-5367-9778

(中道貞子)



【註】生物教育研究所について

生物教育に関わるさまざまな活動を行っている生物教育者(主として、フルタイム勤務を終えた者)で構成されている研究機関。

研究員は、それぞれが関心のあるテーマについて研究活動や啓蒙活動を行っている。

所長: 片山舒康(東京学芸大学名誉教授)

HP <https://tibe.sakura.ne.jp/index.html>